

2022年5月20日「みんなで実現する船のCO2削減」
～新たな船舶燃料の導入に向けた国際動向の最前線と展望～
宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所 会長の宿利正史です。

本日のセミナーにも、会場とオンラインで大変多くの皆様方にご参加いただいております。誠にありがとうございます。

また、本日のセミナーもはじめ、日ごろより当研究所の活動に対して手厚いご支援をいただいている日本財団に厚く御礼申し上げます。

さて、本日のセミナーは、「みんなで実現する船のCO2削減 ～新たな船舶燃料の導入に向けた国際動向の最前線と展望～」と題して、海運分野におけるカーボンニュートラルに向けた取組みと、課題を取り上げます。

皆様すでによくご承知のとおり、今日気候変動問題は、環境問題にとどまらず、産業の存廃を含め人間のあらゆる活動の持続性に関わる極めて深刻かつ重要な課題であり、これは、世界経済の成長に伴い需要が拡大している海運分野においても例外ではありません。

IMO(国際海事機関)においては、これまで船舶の燃費に着目し、効率的に運航することで船舶からのGHGを削減するといった取組みを推進してきましたが、「2050年カーボンニュートラル」が強く要請される中、海運分野における気候変動対策に関する取組みをより一層加速するため、燃料の転換に着目した議論が進められています。

一方で、海運分野におけるカーボンニュートラルを進めるため、船舶からのGHGの排出量をゼロに抑えるだけでなく、船舶の運航のために供給される燃料や電力等のエネルギーが生産され、供給されるまでのGHGの排出量も同時に減らしていくことが重要となります。すなわち、グローバルな地球温暖化対策を確実なものとするためには、海運業界だけではなく、世の中全体の問題として取り組んでいくことが重要です。

こうした観点から、当研究所では、エネルギーが原料として採掘され、燃料として製造され、そして船舶に供給され、消費されるまでにどれだけの GHG を排出するのか、を計算し評価する手法、ライフサイクルアセスメント(LCA)に2年前から着目し、日本政府他関係機関、関係企業、学識経験者と連携し、調査研究を進めてまいりました。この成果については、本年2月にIMOをはじめ国際海事関係者に向けて、国際ウェビナーを開催し、世界に発信したところです。

本日のセミナーでは、最初に ^{やまと ひろゆき} 大和 裕幸 国立研究開発法人海洋研究開発機構 理事長から、国際海運のゼロエミッション化への新しい取り組み方について基調講演をしていただきます。

続いて、前の国土交通省海事局長である、当研究所の大坪 新一郎 客員研究員より、海運分野におけるライフサイクルアセスメント(LCA)に関する私共の調査研究の成果について講演いたします。

その後、^{ひえかた かずお} 榎方 和夫 東京大学大学院 新領域 ^{そうせい} 創成 科学研究科教授をコーディネーターに、伊藤忠商事株式会社の赤松 ^{たけお} 健雄 様、国土交通省海事局の ^{しおいり たかし} 塩入 隆志 様にも加わっていただき、パネルディスカッションと質疑応答を行います。

本日のセミナーを通じて、当研究所の調査研究の成果を分かりやすくお伝えするとともに、海運分野におけるカーボンニュートラルに向けた国際的な政策・取組みの動向などについて、情報や問題意識の共有を図り、今後どのような取組みや施策が必要となるのか、皆様と共に考察を深めたいと思います。

本日のセミナーがご参加いただきました多くの皆様にとりまして、真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、冒頭の挨拶といたします。

本日はご参加いただきまして誠にありがとうございます。

以上